

**内閣府原子力委員会
第3回放射性廃棄物専門部会**

国民理解に向けて

平成28年7月26日

特定非営利活動法人

Comfort さばえ

副理事長 鈴木 早苗

自己紹介

大阪府吹田市出身

結婚⇒第1子出産後 福井県鯖江市へ移住

職業:鯖江市図書館職員

家族構成:夫(私立高校勤務)

長男(32歳) 長女(30歳)

現在は夫と2人暮らし

**子ども達が小中学生の頃、学校給食の改善
問題に没頭し、食への関わりから環境問題へ…**

**平成14年 学校完全週5日制の施行と共に、
「土曜塾」を開校**

その後、様々な市民活動に携わるようになる

経歴

土曜塾 塾長

NPO法人 エコプラザさばえ 副理事長

NPO法人 さばえNPOサポート 理事

NPO法人 Comfortさばえ 副理事長

福井県環境アドバイザー

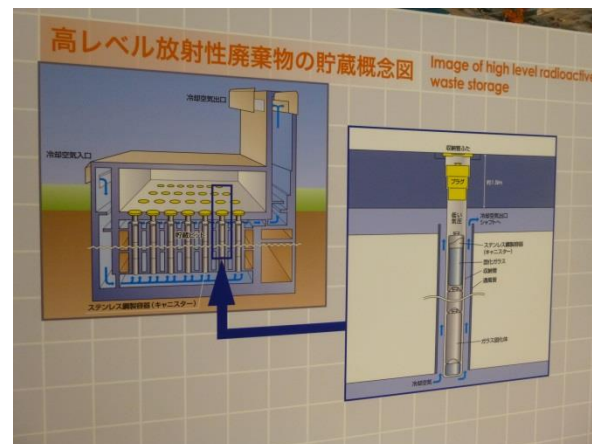
福井県地球温暖化防止活動推進員

福井小水力利用推進協議会 理事 など

原子力発電所からの 放射性廃棄物の処分問題に関心を持つ

○このまま最終処分地が決まらずに
放射性廃棄物が貯まりつづけたら
どうするのだろうか？

○大阪に住んでいる時は福井の原発で
つくった電気を消費している意識がなかった



すぐれた技術 確かな安全 世界に示す 新生「もんじゅ」



独立行政法人 日本原子力研究開発機構

EPS





核のごみ 地層処分「リスク明示を」

国シンポ
福井初開催 県民代表ら討論

経済産業省などは23日、原発から出る核のごみ（高レベル放射性廃棄物）の地層処分に關するシンポジウムを福井市の県国際交流会館で開いた。国が処分地選定に向けた科学的有望地を年内に示すことについて、経産省は国民の理解や情報共有のためと説明。県民代表のバネリストは「国は（処分）安全神話を押し付けるのではなく、リスクも示して対話活動をするべきだ」と指摘した。

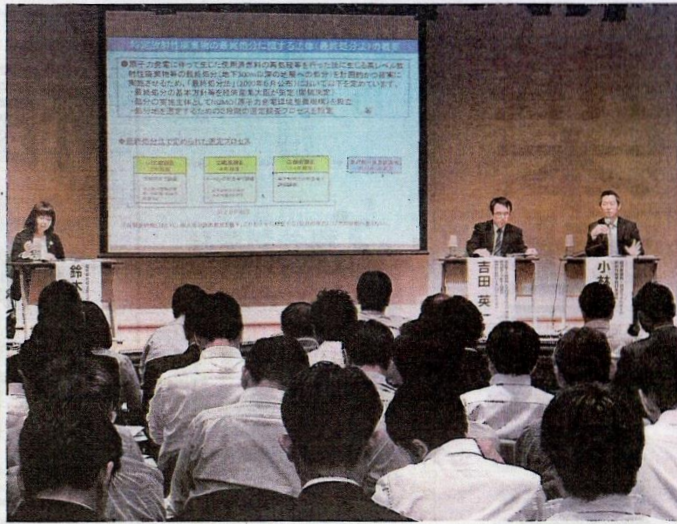
（青木伸方）

シンポは、政府が昨年5月、高レベル廃棄物の最終処分の選定に關して国主導に変更する新たな基本方針を決めたのを受け、全国各地で開いている。シンポでは、有望地の要件

る。本県開催は初めてで、行政や電力関係者、市民ら125人が参加した。

科学的有望地は火山や活断層を避け、港湾から近いなど条件を考慮し、処分場の候補地として適性が高い地域を国内地図に色分けして示すもの。国は提示後も各地で対話活動を通じ、理解の進み具合を踏まえて複数の候補自治体に調査を申し入れる方針。

（第3種郵便物認可）



核のごみの最終処分地選定に向け、科学的有望地の提示などの方針について議論したシンポジウム＝23日、福井市の県国際交流会館

はじめての一票

ンロードできる。県選管は「初めて1票を投じた記念にほしい。若者の投票率アップにつながるれば」と期待している。アプリは、県選管と同協議会の依頼を受け、県内のIT企業の依頼を受け、県内のIT企業でつくる県情報システム工業会

投票記念にパチリ！

県選管が開発。アプリとして投票所の奥の（GPS）着が確認できる写真フ

高レベル放射性廃棄物 ワークショップ参加者に対して…

**「原発の賛否や再稼働の是非を論じる場」
にならないようにということを確認**

**⇒廃棄物の処分問題があるということを
まずもって知ってもらいたい
その上で、みんなで考えていく**





東京電力 福島第一原子力発電所

リスクコミュニケーション

リスクとうまく付き合うために

以前⇒「リスクを回避する」という考え

現在⇒「リスクを知る権利」
を尊重する社会

リスクがある以上

（市民は）それを知らされるべき

（事業者等は）それを知らせる努力をするべき

高レベル核廃棄物 地下処分話し合う

福井で市民ら

原発から出る高レベル放射性廃棄物の処分について、地域や市民の立場から考えるワークショップが1日、福井市研修センターで開かれた。講演や意見交換を通じ、処分の必要性や安全性、社会的理解が得られるかを話し合った。

NPO法人「持続可能な社会をつくる元気ネット」

ト」（東京）などが、2007年度から全国で開いている。県内では4回目で約50人が参加した。

同廃棄物は、原発の使用済み核燃料再処理に伴って発生する。ガラスで



高レベル放射性廃棄物の処分について話し合ったワークショップ
福井市研修センター

固めて地下深くに埋める「地層処分」が検討されている。

日本原子力学会シニアネットワーク連絡会運営委員の坪谷隆夫さんが、同廃棄物や地層処分について説明した。「処分の技術的なめどは付きつつあるが、社会に受け入れられなければ実現しない」とし、地域の意見を十分に反映させた取り組みが必要と指摘した。また、放射線や人体への影響、防護の考え方を専門家が紹介した。

参加者は4グループに分かれて意見交換。「原発が建設されて40年以上たっているのになぜ放置されていたのか」「日本には活断層がたぐさ

市民活動を継続してきた者として…

理解活動 ⇒ わかってもらう努力

広報活動 ⇒ 広くお知らせする

対話活動 ⇒ 目を見て話すことの大切さ

処分地に対して

崇高な気持ちを抱ける

雰囲気作り

社会学的側面

エネルギー教育の

一環として

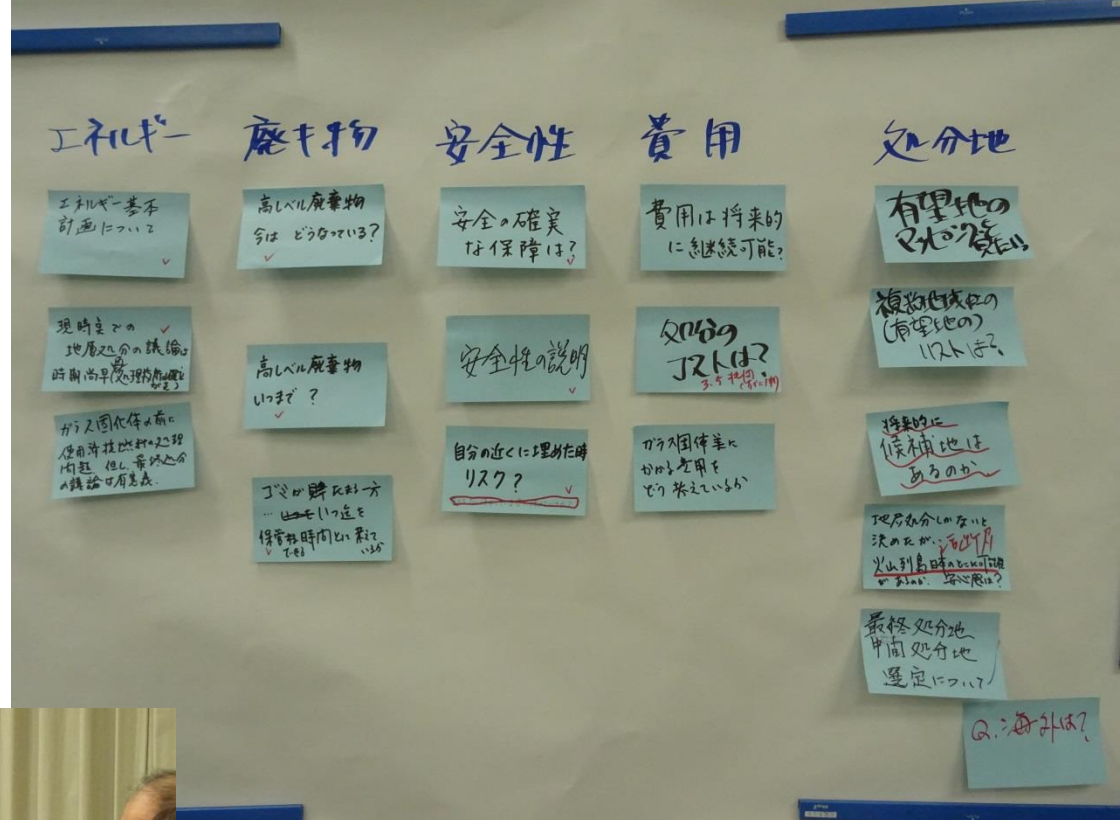
科学的側面

技術の検証・革新

科学技術の発展

安全の担保

両輪をまわす



いま改めて考えよう地層処分
～将来世代に負担を
残さないために～
福井会場
平成27年11月29日

最近の国やnumoの事業に参加して思ったこと

〈良かったこと〉

- 双方向的で一緒に考えようとする姿勢が見られる。
- 国やNUMO以外の有識者を呼んで色々な角度からの情報を提供しようとしている。
- リスクを伝えようとする努力が伺える。
- イベントの結果をホームページに掲載するなどして多くの人々に知らせようという努力が伺える。

〈今後の課題〉

- 体制づくり（官民一体となったプロジェクトチーム）
- 教育現場での継続的な取り組み
- シンポジウム等には関心を持っている人しか参加しない
→ 裾野を広げる努力
- 福島事故以降、放射性廃棄物に対して恐怖感・嫌悪感の増した国民感情 → 信頼を取り戻そうとする国の姿勢



ありがとうございました